

平成20年度 自然史学会連合

講演会

恐竜からDNAまで

自然史研究最前線

自然史学会連合は、国内38の学協会からなる研究者の組織です。連合が推薦する10名の研究者が、自然史研究の面白さをわかりやすく解説します。

2008.11.15 SAT

主催 自然史学会連合 共催 千葉県立中央博物館 協賛 ロレックス・インスティテュート

会場 **千葉県立中央博物館** 参加無料 予約不要 定員200名

TEL.043-265-3111(代) <http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>

PROGRAM

10:30

■ 開会のあいさつ

10:40 → 12:10

■ 丹波の恐竜と中生代哺乳類 (三枝春生 / 兵庫県立人と自然の博物館)

■ 骨の分析で縄文人の食生活を調べる (米田 稔 / 東京大学大学院)

■ 生物が創る季節: ポルネオ島フタバガキ林の一斉開花 (酒井章子 / 総合地球環境学研究所)

■ 地面を覆う生物多様性 — 土壌生物からみる生態系 — (金子信博 / 横浜国立大学)

13:20 → 14:30

■ オスがさえずりをやめるわけ — 適応を探る生態学 (浜尾章二 / 国立科学博物館)

■ 深海の甲殻類 その多様性にせまる (駒井智幸 / 千葉県立中央博物館)

■ 生まれたときからはたきアリ? — シロアリの階級はどう決まるのか? — (北出 理 / 茨城大学)

14:40 → 15:50

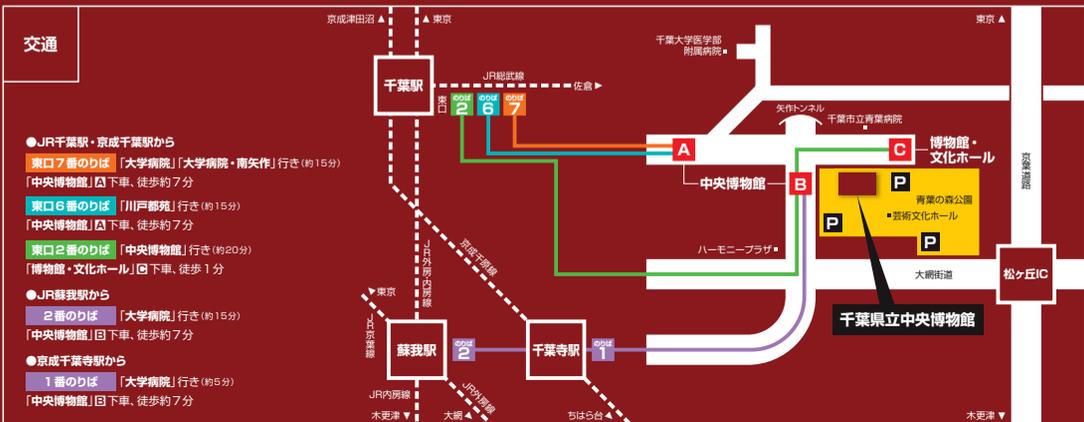
■ 1836年英国のキリン・フィーバー 自然の脱・神話化? (伊東剛史 / 東京大学大学院)

■ 木の上で生きるラン、フガクスズムシの進化にせまる (堤 千絵 / 国立科学博物館)

■ 氷河をとかす微生物: 雪と氷の世界の不思議な生物 (竹内 望 / 千葉大学大学院)

15:50 → 15:55

■ 閉会のあいさつ



自然史学会連合 加盟学協会

<http://www.soc.nii.ac.jp/ujsnh>

種生物学会・東京地学協会・日本遺伝学会・日本衛生動物学会・地学団体研究会・日本花粉学会・日本魚類学会・日本菌学会・日本貝類学会・日本古生物学会・日本昆虫学会・日本昆虫分類学会・日本蜘蛛学会・日本植物分類学会・日本人類学会・日本生態学会・日本植物学会・日本蕨類学会・日本藻類学会・日本第四紀学会・日本生物地理学会・日本鳥学会・日本地理学会・日本動物学会・日本地質学会・日本動物分類学会・日本プランクトン学会・日本ベントス学会・日本動物行動学会・日本鱗翅学会・日本巻貝学会・日本陸水学会・植生学会・日本哺乳類学・植物地理分類学会・地衣類研究会・日本進化学会・日本地衣学会